

研究ノート

道徳の「読み物教材・資料」に関する研究

The study of the reading teaching materials in the moral education.

荒木 紀 幸*

Noriyuki Araki

平成26（2014）年文部科学省は、「道徳教育の充実に関する懇談会」の報告を受け、道徳教育用教材、「私たちの道徳」を作成、翌年3月に学習指導要領の改訂を行い、「特別な教科 道徳」、道徳科が誕生した。この改訂の前後で、文部科学省編集の読み物資料を用いた道徳授業の「ねらい（道徳的判断力、心情、道徳的な実践意欲、態度の観点）」が、心情重視からどのように変化したかについて、資料に基づいて検討した。研究は、1）小学校（2011）と中学生（2012）の道徳「読み物資料」（文部科学省編）における、「ねらい」の傾向、2）文部科学省編「私たちの道徳」（読み物資料、2014）に見る、小学校と中学校の道徳の授業における「ねらい」の傾向、3）荒木他編集による「私たちの道徳」教材別ワークシート集（小学校1－2年編、3－4年編、5－6年編、中学校編、2015）に見る、小学校と中学校の「ねらい」の傾向、3点から行われた。文部科学省が示す授業モデルの「ねらい」の分析からは、道徳的「態度」重視の傾向が強く、「考える道徳」、「議論する道徳」に向かって移行がスムーズに行われているように見えない。

キーワード：授業のねらい、心情重視、道徳性、モラルジレンマ資料、私たちの道徳

1. 小学校（2011）と中学生（2012）の道徳「読み物資料」（文部科学省編）における、「ねらい」の傾向

目的

平成18年（2006）10月、21世紀にふさわしい教育体制を構築し、教育の再生を図っていくことを目的として設置された「教育再生会議」は、平成19年（2007）1月に「社会総がかりで教育再生を～公教育再生への第一歩～」と第1次報告を行い、「7つの提言」を示した。その中で道徳教育と直接に関わりのある提言は、第3の「全ての子供に規範を教え、社会人としての基本を徹底する」であり、次の2つの方向が示されている。

- ① 社会人として最低限必要な決まりをきちんと教える。
- ② 父母を愛し、兄弟姉妹を愛し、友を愛そう。

これらは生きる上で必要な道徳的な価値を教師が子どもたちにしっかりと教えることを強調したものである。教育再生会議は第3次報告（平成19年12月）で、『德育を「教科」として充実させ、自分を見つめ、他を思いやり、感性豊かな心を育てるとともに人間として必要な規範意識を学校でしっかり身に付けさせる』という道徳教育の抜本的な変革を求め、現行の教育の在り方に変更を迫った。

このような動きの中で、中央教育審議会は平成20年（2008）1月に「21世紀を切り拓く心豊かでたくましい日本人の育成をめざし」という観点のもとで答申を出した。それを受けて文部科学省は3月に小学校、中学校の学習指導要領を改正させた。そこでは、「ゆとり教育」の是正が行われ、「生きる力」の育成は存続となった。道徳教育については大幅な改正はなかった（総則に道徳教育の目標として「我が国と郷土を愛する日本人の育成」が明記された）。

文部科学省は、道徳教育の充実を図るために、改訂された学習指導要領が全面実施される平成23（2011）年に、小学校の「道徳の時間」に使う「読み物資料集」を発行している。また、平成24（2012）年には、中学校用の「読み物資料集」も発行している。それぞれの読み物資料には、それらの活用事例が示され、教育現場のニーズに応えようとしている。

道徳の時間についてはその指導が形式化して実効が上がっていない（読み物資料を使って、主人公の気持ちを聞く、心情を追う授業や教師が一方的に徳目を教化する授業）という指摘がある（荒木、1997；行安茂、2009）。文部科学省も「道徳の解説書」で「道徳の時間においては、その特質を十分に理解し、教師の一方的な押しつけや単なる生活経験の話し合いなどの終始することがない

* 兵庫教育大学名誉教授

ように」と偏った授業方法を戒めている(2008)。森岡卓也は「心情重視・判断力軽視」の教育行政や道徳教育を批判的に検討している(2011)。

本研究では、この「読み物資料」集に掲載された資料の活用例、それぞれについて「ねらい」の書き方がどのようになっているかを分類整理し、その出現傾向、特徴を明らかにする。

「小学校学習指導要領解説・道徳編(2008)」によると、「ねらい」は、ねらいとする道徳性の内容や観点を端的に表したもののいう。そこで、道徳性の構成要素である「道徳的心情、道徳的判断力、道徳の実践意欲と態度」の4点を手がかりに分類することとした(2015年の一部改訂では、… 学習を通して、道徳的な判断力、心情、実践意欲や態度を育てる、と順序の変更があった)。

なお、道徳的心情は、道徳的価値の大切さを感じ取り、善を行うことを喜び、悪を憎む感情のことである。人間としてのよりよい生き方や善を志向する感情であるといえる。それは、道徳的行為への動機として強く作用するものである。道徳的判断力は、それぞれの場面において善悪を判断する能力である。つまり、人間として生きるために道徳的価値が大切なことを理解し、様々な状況下において人間としてどのように対処することが望まれるかを判断する力である。道徳の実践意欲は、実感した道徳的価値の良さや素晴らしいさ、正しさを実現しようとする意欲や意志の働きのことであり、道徳的態度は行為への内的傾向や道徳的行為への身構えのことである。

道徳授業の「ねらい」は、授業を通して学習されることが期待される具体的な成果のことであり、「道徳的判断力(略して判断)」、「心情」、「実践意欲(略して意欲)」、「態度」である。授業で学んだことをすぐにでも実行したくなる思いは、「意欲」に当たる。それは授業の即実的な効果ともしっかり関係する。これに対して、「態度」は、行為への内的傾向や道徳的行為への身構えとの説明があるように、「内的傾向や特定の構え」は個人の中に形成される必要があり、時間を要する。「態度」は授業後にすぐ身につくものでないが、時と場に応じて求められる。「判断」と「心情」は、道徳的価値についてその感情的側面と知的側面の学習に関係しており、それらが道徳性の発達の基礎を提供し、発達と共に分化、統合され、道徳の実践力を形づくると考える。年間の道徳の授業カリキュラムを計画する時には、この「判断」と「心情」の学習のバランスをどのように保証するかが、特に重要である。

方法

文科省発行(2011, 2012)の以下の道徳「読み物資料」について、活用例の「ねらい」を分類、整理した。

調査対象は以下の通りである。

小学校道徳読み物資料集(2011)内訳

「第1学年及び第2学年」 活用事例8本

(1) ぽんたとかんた、(2) シロクマのクウ、(3) どんな一ねんせいになるのかな、(4) たびにでて、(5) まりちゃんとあさがお、(6) ごちそうさまのあとで、(7) もりのゆうびんやさん、(8) みんなのニュースがかり

「第3学年及び第4学年」 活用事例9本

(1) おひめさまと少年、(2) 少しだけなら、(3) うれしく思えた日から、(4) 卓球は四人まで、(5) ぼくの妹に、(6) ひどいよね、(7) レストランで、(8) 妙見山のちかい 一岩崎弥太郎一、(9) みんな、待っているよ

「第5学年及び第6学年」 活用事例12本

(1) ホームステイ、(2) 夏の日のこと、(3) 知らない間の出来事、(4) 幸せコアラ、(5) その思いを受け継いで、(6) 二ひきのカエル、(7) 苦しいときだからこそ、(8) お客様、(9) きまりは何のために、(10) 小川笠船、(11) 立志の人 一山川健次郎一、(12) 人間をつくる道 一剣道一

中学校道徳読み物資料集(2012)内訳

「中学校1・2年」 活用事例8本

(1) 町内会デビュー、(2) 違うんだよ、健司、(3) 言葉の向こうに、(4) 背番号、(5) 絶やしてはならない 一緒方洪庵一、(6) 闇の中の炎、(7) ロックンローラー、(8) 真の国際人 一嘉納治五郎一

「中学校2・3年」 活用事例8本

(1) スイッチ、(2) ネット将棋、(3) 嵐の後に、(4) 帰郷、(5) キミばあちゃんの椿、(6) 仏の銀蔵、(7) 鳩が飛び立つ日 一石井筆子一、(8) 海と空 一樫野の人々一

結果と考察

「ねらい」を表すことばには様々なものが見られた。小学校では、「道徳的な心情(以後心情)」については、その多くの表現は「心情を育てる」であったが、これ以外に「心を育てる」と「心情を深める」が見られた。中学校では、「道徳的心情を育てる」以外に、「道徳的心情を育む、養う、高める」と表現されていた。一方「道徳的な態度(態度)」については、大部分の表現が「態度を育てる」であり、「態度を養う」も見られた。中学校で見られた「道徳の実践意欲(意欲)」は「道徳の実践意欲を育てる」の表現以外に「意欲を養う、培う」があり、「道徳的判断力(判断)」は、「道徳的判断力を培う、育てる、養う」が見られた。

この「ねらい」の4要素に従って、学年別に分類した結果が表1である。また、「ねらい」の相対的な出現率(%)を学年別に図示したのが図1である。

表1と図1から、小学校と中学校で「道徳の時間」の「ねらい」の扱いが違っていることが分かる。

まず、小学校での「ねらい」を見ると59%(17本)が「心情」、41%(13)が「態度」と、この2つの「ねらい」に集中している。これを学年別にみると、中学年(3・

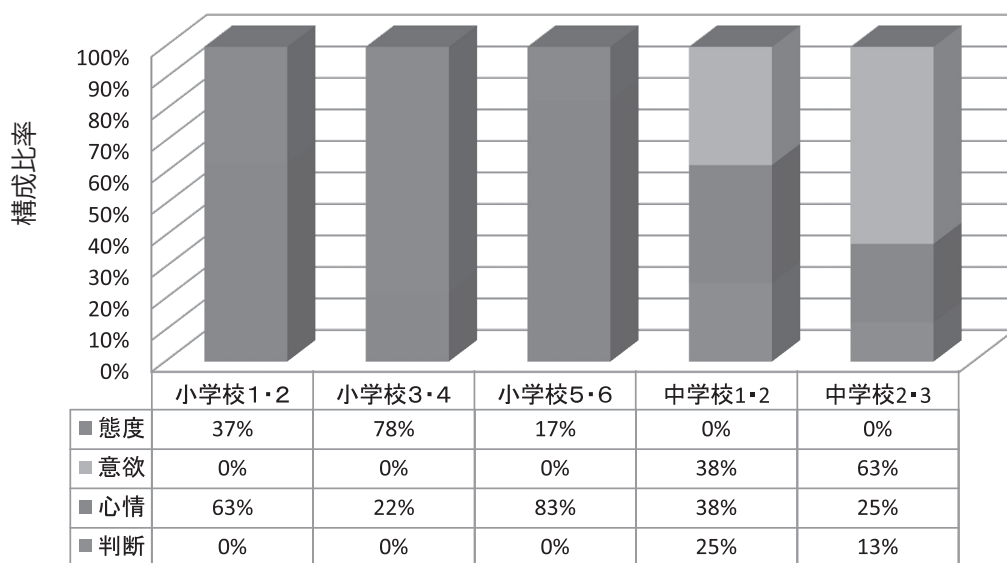


図1 文部科学省作成「読み物資料の活用」(2011)に見る道徳授業の「ねらい」の学年別分類

表1 学年別に見た「読み物資料(文科省, 2011)」の「ねらい」の分類

学 年	判 断	心 情	意 欲	態 度	資料数
小学校1・2年	0	5	0	3	8
小学校3・4年	0	2	0	7	9
小学校5・6年	0	10	0	2	12
中学校1・2年	2	3	3	0	8
中学校2・3年	1	2	5	0	8

4年)のみ他の学年と違って、「ねらい」が「態度」に集中している。これを除いてみると、小学校全体として「道徳の時間」の「ねらい」は「心情」重視の傾向にあるといえる。なお中学年では「態度」を「ねらい」にすることが圧倒的に多い(態度=78%, 心情=22%)。

しかしながら、中学校をみると、様相が変化していた。小学校では見られなかった「意欲」が授業のねらいとして最も多く上がって(8本, 50%)おり、次いで「心情」(5本31%), 第3番目に「判断」(3本, 19%)であった。小学校で最も多く使われた「態度」は中学校では授業の「ねらい」に上がっていない。中学校においては、「意欲」と「心情」で81%が占められた。小学校では全く「ねらい」になかった「意欲」が中学校で取り上げられ急増したことは、道徳的に価値のある行為を特に中学生に取らせたく、中学生を鼓舞させたいためであろうか。また新たに「判断」を促す「ねらい, 19%」が設定されたことは、心情重視の授業が多い中で、中学生の各学年でしっかり考えて道徳的に「判断」させる機会を用意した意味で興味深い。

授業の「ねらい」には一定の傾向が見られるか、学年の進行に伴ってどのような変化をするかを見るために、「ね

らい」の4要素について学年別にその相対的な出現率(%)を比較検討してきた。その結果、小学生については、道徳の時間の「ねらい」は「心情」と「態度」に集中し、中学校では、「意欲」と「心情」中心に、若干の「判断」という結果であった。既に見たように、道徳性は「道徳的な心情, 判断力, 実践意欲と態度など」の4要素からなるとされる。この中の判断力は「道徳的な価値」を正しいこと, よいこと, としてとらえる働き, 知性や認識, 理性と関係している。このように道徳的判断力は道徳性の認知的側面を表している。これに対して、「道徳的な心情, 実践意欲と態度」は「道徳的な価値」の大切さに気づき, やることに喜びや幸せを感じ, 実践したい気持ちを起こし, そうありたいと憧れたりする, 感性, 感覚, 感情, 意志, 構え, 動機などと結びついている。つまりこれらは道徳性の情意的側面を表している。このように見ると、「読み物資料の活用例」は全体として、「心情」重視, 「心情」優位の授業展開を表していると言える。しかし、中学生になると発達段階の観点が考慮され, 知的な側面である「判断」を取り入れた授業展開が強化されていることが分かる。

2. 文部科学省編「私たちの道徳」(読み物資料, 2014)に見る, 小学校と中学校の道徳の授業における「ねらい」の傾向

道徳教育, とりわけ道徳の時間の指導の現状を巡って, 様々な課題が指摘され, それらの改善が強く求められている。教育再生実行会議の第1次提言を踏まえて設置された「道徳教育の充実に関する懇談会」は平成25年(2013)2月, 「今後の道徳教育の改善・充実方策について(報告)」を行っている。この中で, 特に条件整備が必要なものとして教材・教科書を上げ, 道徳教育を充実させるために

は、道徳の時間における優れた教材の活用があると述べ、「心のノート」の全面改訂を提言し、道徳の教科書についても言及している。それを受けた文部科学省は、翌年の平成26年（2014）3月に道徳教育用教材の「私たちの道徳」を全国の小学生と中学生に配布した。これに続き、翌年の平成27年（2015）3月に文部科学省は、学習指導要領の一部改正を行い、道徳の時間を教育課程上「特別の教科 道徳」として位置づけ、考える道徳、議論する道徳へと大きく舵を切った。この改正は、平成26（2014）年10月に、中央教育審議会が文部科学省に答申した「道徳に係わる教育課程の改善等について」に基づいてなされたものであり、次の6つの観点からのものである。

- （1）道徳の時間を「特別の教科 道徳」（仮称）として位置づける。
- （2）目標を明確で理解しやすいものに改善する。
- （3）道徳の内容をより発達の段階を踏まえた体系的なものに改善する。
- （4）多様で効果的な道徳教育の指導方法へと改善する。
- （5）「特別の教科 道徳」（仮称）に検定教科書を導入する。
- （6）一人一人のよさを伸ばし、成長を促すための評価を充実する。

全国の小中学校の児童生徒に配られた道徳教材、「私たちの道徳」は「心のノート」を全面改定したものである。子どもたちが道徳的価値について自ら考え、行動できるようになることを「ねらい」として作成された道徳教育用教材である。それは、①学習指導要領に示された内容項目ごとに「読み物部分」と「書き込み部分」とで構成され、②児童生徒の発達の段階を踏まえて作成され、③先人達の名言、偉人や著名人の生き方に関する内容、④いじめ問題への対応、⑤我が国の伝統と文化、情報モラルなど、内容面での充実を図っている（私たちの道徳、小学校1～2年、3～4年、5～6年、中学校、文部科学省、2014）。

文部科学省は平成26年11月に、「私たちの道徳」を学校現場で具体的に活用するための手引き書を「私たちの道徳、活用のための指導資料」として、小学校用と中学校用を発行している。なお、「私たちの道徳」活用の留意事項として、「道徳の時間においては、児童生徒が多様な角度から考えたり話し合ったりしながら、道徳的価値について考えを深めていくよう、「私たちの道徳」の効果的な活用の仕方も含めて指導方法を工夫していくことが求められる。その際、教師が一方的に教え込むのではなく、児童生徒の多様な発想や考え方を大切にし、それを受け止めたり、認めたりするなどして、話し合いに生かしていくことが重要である。児童生徒一人一人の道徳性に係る成長を促すことができるよう、発言をどのように受け止めて話し合いに生かすのか等も含め、指導の在り方を工夫していくことも求められる」と述べる。

この研究ノートでは、授業の展開活用例を具体的に示

している教材のみを取り上げるが、それらは全て「読み物部分」に当たるものである。今回の改正では、主人公の気持ちを考える道徳、「心情重視」の道徳から、「考える・議論する」道徳に移行、改善が図られた。従い、認知的な働きを重視した授業展開が期待できるので、「ねらい」の設定の仕方も、道徳性を構成する要素である「道徳的判断力、道徳的心情、道徳の実践意欲、道徳的態度」のうち、「道徳的判断力」の活用が増えることが予想される。これらの点を小学校、中学校について明らかにしていく。なお、学習指導要領の改訂で、道徳性を構成する要素の出現順序の変更があり、前述の新しい順序、昭和43年第二回目の改訂のものと同じ順序となった。

研究ノート（1）で、文部科学省が発行した「読み物資料、2011年」について行った調査では、道徳的な『心情重視』、『心情優位』の授業展開が、小学校、中学校ともに認められた。道徳は『特別な教科 道徳』となり、考える道徳に大きく方向転換した。道徳の授業で使われる準教科書として見なされる『私たちの道徳』がどのような授業展開を想定しているかを明らかにする目的で調査を行った。

方法

文部科学省発行の「私たちの道徳、小学校・中学校一活用のための指導資料」（2014）では、様々な活用方法が解説されている。その中で「読み物資料」についてのみ授業での展開例が「ねらい」と共に詳しく示されている。そこでここでは、授業の「ねらい」である道徳性要素（判断力、心情、意欲、態度）に基づいて、掲載された「読み物資料」の「ねらい」について分類、整理した。

調査対象

「小学校読み物資料」について 「私たちの道徳—小学校・活用のための指導資料」で展開例が示された「読み物資料」は以下の36本である。

「第1学年及び第2学年」 活用事例12本

（1）るっぺどうしたの、（2）小さな努力の積みかさね—二宮金次郎—、（3）ぼんたとかんた、（4）お月さまとコロ、（5）たびにでて、（6）はしのうえのおおかみ、（7）およげないりすさん、（8）ハムスターの赤ちゃん、（9）虫が大好き—アンリ・ファール、（10）黄色いベンチ、（11）森のゆうびんやさん、（12）ぎおんまつり

「第3学年及び第4学年」 活用事例12本

（1）少しだけなら、（2）きっとできる、（3）よわむし太郎、（4）六セント半のおつり—リンカーンの話—、（5）うれしく思えた日から、（6）心と心のあく手、（7）同じ仲間だから、（8）ヒキガエルとロバ、（9）富士と北斎、（10）雨のバス停留所で、（11）ブラッドレーのせい求書、（12）みんな、待っているよ

「第5学年及び第6学年」 活用事例13本

（1）ヘレンと共に—サリバン、（2）うばわれた自由、（3）

天からの手紙, (4) 最後のおくり物, (5) 知らない間の出来事, (6) ブランコ乗りとピエロ, (7) 黄熱病との戦い, (8) その思いを受け継いで, (9) きまりは何のため, (10) 愛の日記, (11) 小川笙船, (12) 人間をつくる道 一剣道一, (13) ペルーは泣いている. なお, 「私たちの道徳」に読み物資料として「小川笙船」が取り上げられていたが, 活用資料の中にその展開例は示されていなかったため, 文科省 (小学校読み物資料, 2011) の展開例を適用した.

「中学校読み物資料」について 「私たちの道徳—中学校・活用のための指導資料」で展開例が示された「読み物資料」は以下の9本である.

活用事例9本

(1) ネット将棋, (2) 言葉の向こうに, (3) 帰郷, (4) キミはあちゃんの椿, (5) 二人の弟子, (6) 二つの手紙, (7) 鳩が飛び立つ日—石井筆子, (8) 一冊のノート, (9) 海と空—樫野の人々

結果と考察

文科省作成の「私たちの道徳—読み物資料の活用」(2014)で取り上げられた活用事例における道徳授業の「ねらい」を学年別にその要素の出現傾向を比較することで, 「特別な教科道徳」として改訂され, 「心のノート」を全面改訂した「私たちの道徳」を適切に使用するために用意された手引き書が, 「心情重視の道徳」から「考え, 議論する」道徳科へ質的転換を促すように作られているかを検討することを目的として, 読み物資料を中心に調査した.

読み物資料の活用事例は小学校で36本, 中学校で9本

であった. 道徳の授業の「ねらい」を「道徳的判断力 (略して判断), 心情, 実践意欲 (意欲), 態度」の4要素で分類し, 学年別に集計した結果をまとめたのが, 表2である.

表2に見る如く, 授業の「ねらい」は, 小学校, 中学校共に「態度」に集中している. その傾向は小学校で高く, 小学3—4年生では事例の92%が「態度」であり, 他の学年でも84%であった. 中学校はこれらややより低く, 「態度」の比率は78%であった. いずれにせよ, 授業の「ねらい」の大部分が道徳的な「態度」の育成に置いていることが分かる. これ以外では, 低いけれど「道徳的な心情」と「実践意欲」の育成がみられた. 中学校では, 小学校に比べて若干道徳的な「態度」の育成が減り, 「実践意欲」が増えていたという結果であった. また, 中学校では道徳的心情の育成は見られなかった.

この結果を2011年に公表された文科省作成「読み物資料の活用例」(図1)と比べると, 2011年活用例では, 特に小学校で「道徳的な心情」を授業の「ねらい」に置いていることが多かった. 2014年度の活用例では, それが全くなり, 代わって「道徳的な態度」の育成が増

表2 学年別に見た読み物資料の「ねらい」(文科省, 2014)

学 年	判 断	心 情	意 欲	態 度	資料数
小学校1・2年	0	1	1	10	12
小学校3・4年	0	1	0	11	12
小学校5・6年	0	1	1	11	13
中学校	0	0	2	7	9

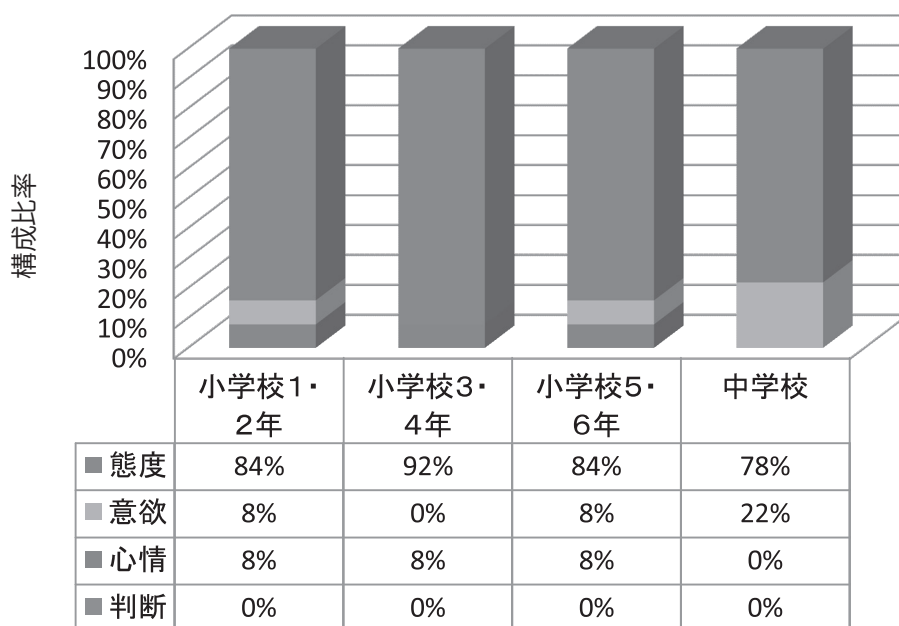


図2 「私たちの道徳—読み物資料の活用」(文部科学省, 2014)に見る授業の「ねらい」の学年別比較

えている。このように、「心情」優位の道徳の時間がなくなっている。しかし、中学校（2012）に転じると、読み物資料の活用例の中に、「道徳的心情」が見られないだけでなく、「道徳的な判断力」の育成についても見られなかった。8割が「道徳的態度」の育成、残り2割が「実践意欲」の育成であった。小学生では、「心情優位」がなくなっていたが、中学生では、「判断力」育成が「ねらい」からなくなった分、「考える道徳、議論する道徳」を積極的に推進しようとしている姿勢が見て取れない。道徳的判断力を育てる教材が2012年度版について3本取り上げられていたが、今回の「私たちの道徳」では採択されていない。道徳授業の「ねらい」からは、必ずしも、「考える道徳、議論する道徳」に向かって移行がスムーズに行われているようには見えない。

3. 荒木他編集による「私たちの道徳」教材別ワークシート集（小学校1～2年編、3～4年編、5～6年編、中学校編、2015）に見る、小学校と中学校の「ねらい」の傾向

研究ノート（2）では、「私たちの道徳」が、「心情重視の道徳」から、「考え、議論する道徳」に移行しているかを、手引き書、「私たちの道徳、活用のための指導資料」に基づいて調査した。調査対象となった教材は授業の「ねらい」を明記している「読み物資料」で、小学校では35本、中学校9本が該当し、それらを分析した。この結果、「ねらい」は小学校、中学校共に「道徳的な態度」を育てるという点に集中していた。その傾向は小学校で特に強いものであった。全体として、「心情」優位の道徳の時間は少なくなっているが、中学校では「道徳的な判断」教材がなくなっていた。以上の状況から、「考える道徳、議論する道徳」に向かう移行は必ずしもスムーズであるといえない。

荒木は、文部科学省発行、「指導の手引き」に出合う以前、2014年3月に出版された道徳の教育用教材「私たちの道徳」を手にした時、子どもたちの主体性や自主性を育てるという観点から、「私たちの道徳」はその内容の多くがクローズであり、「正直、極めて使い方が難しい」との思いをもった。そのまま使うと、読むだけに終わってしまい、「よいこと、してはいけないこと、生き方、ものの見方・考え方」が知識理解されるだけ（それもすぐ忘れ去られる）で、道徳的実践力につながらないと考えていた。「考え、議論する」ための発問や活動の工夫、道徳性の発達という観点から子どもの言動を分析できるワークをはさむ必要がある。補助教材を開発し、使い勝手のよい指導過程にすることや「物語り教材、コラム欄、格言、俳句」などの補充も必要だとも思った。モラルジレンマに追い込む場面設定を加えることもよい方法だと考えた。また、これまでの経験から、お互いを尊重し、クラスでの学び合い、話し合いをすすめることが自尊感情の育成につながると考えた。そのようなことがきつ

けとなり、研究仲間の協力も得ることができ、「私たちの道徳」教材別ワークシート集の出版の運びとなった（荒木他、2015）。

荒木他編著となる『考える道徳を創る「私たちの道徳」教材別ワークシート集』、小学校1～2年編、3～4年編、5～6年編、中学校編、では、どのような授業を行えば、子どもたちの道徳性を豊かに発達させることができるか、「考える道徳、議論する道徳」とすることができるかに関して、その方法論的根拠を、コールバーグ博士（1927～1987）の3水準6段階の認知発達理論に求めた。この本の編集には、荒木、堀田泰永、糊澤 実、松本 朗、松尾廣文、荊木 聡が当たった。「考える」道徳を創るという方針に沿って荒木が中心となって編集作業を行い、今回の様々な授業方法や学習活動の提案となった。「教材別ワークシート集」で取り上げた教材には、それぞれ具体的な授業展開案と補助資料、学習活動のための著者独自のワークシート等が付け加わっている。この研究ノート（3）では、教材別ワークシート集で私たちが構想した道徳授業の「ねらい」が、新しい道徳教科が転換を目指している「考え、議論する」道徳を反映した「判断力」育成を重視したものになっているか検討する。

この検討に先立ち、文部科学省が発行した「私たちの道徳」の教材の内容構成について、その特徴を明らかにしておく。

「私たちの道徳」の教材の内容構成

「私たちの道徳」で扱われる道徳教材がどのような構成になっているかを、編成学年ごとに分類整理した構成表を文部科学省が明らかにしている。参考までにその一部（小学1～2年、主として自分自身に関すること）を示したのが表3である。

この「私たちの道徳」構成表にもとづいて、学年別に作成された教材の数とその内容について再整理した結果が表4である。

この表から、小学生と中学生で道徳教材の内容構成に違いが認められるだけでなく、小学校の間でも、低学年、中学年、高学年間で違いが見られる。まず、道徳教材の数で見ると、学年の進行と共にその数が増え、小学校低学年（1～2年）で40点であった教材数が、中学年（3～4年）で50点、高学年（5～6年）では72点に増え、中学生では131点である。教材を構成する内容を見ると、小学校低学年では、「読み物教材」と「ワークシート」を中心に構成されているが、中学年ではそれらに加えて、「コラム」が活用され、「情報」が教材の範疇に入ってくる。高学年になると、更に「コラム」と「格言」が積極的に活用されるようになって、内容に広がりが見られる。中学生では、若干読み物教材の利用が減るが、多くの「コラム・人物コラム」や「格言」を手がかりとした内容にいつそうの広がりが見られる。このように「私たちの道徳」を構成する教材の内容について学年傾向をみると、

表3 「私たちの道徳」の構成表（小学校1～2年の一部，2014）

小学校1・2年			
学習指導要領に示す 内容項目の概要		内容	
1 主として自分自身に関すること	(1) 規則正しい生活	読み物資料 (文部省)	きそく正しく気持ちよい毎日を ワークシート 「るっぺどうしたの」 子さるのるっぺのわがままな振る舞いと生活リズムの乱れが、自分だけでなく周囲をも困らせる話。
		<重点ページ> 生活をふりかえてみよう（早ね早おき朝ごはん）	
	(2) 勉強や仕事は、 しっかりと行う	コラム 読み物資料 (自治体資料)	自分でやることはしっかりと ワークシート うさぎとかめ（イソップ童話） 「小さな力のかみかさねー二宮金次郎」 家の再建を目指して、土手でのなたねの栽培など、小さな努力を積み重ねていった二宮金次郎の話。
		<重点ページ> してはならないことがあるよ	
	(3) よいことと悪いことの 区別	格言 読み物資料 (文部科学省)	よいと思うことはすすんで ワークシート 「ぼんたとかんた」 立入り禁止の場所へ遊びに行こうと、たぬきのかんたに誘われたぼんたが、よく考えて行かないと決める話。
		<重点ページ> してはならないことがあるよ	
	(4) 素直に伸び伸びと生活	読み物資料 (文部省)	すなおにのびのびと ワークシート 「お月さまとコロ」 友達に謝ることができず悩んでいたこおろぎのコロが、お月様に励まされ素直さを取り戻す話。
		<重点ページ> してはならないことがあるよ	

表4 学年別に見た教材を構成する内容の内訳

道徳教材	読み物 文科省	コラム	人物 コラム	メッ セージ	重点 ページ	格言	こと わざ	詩	情報	いじめ	ワーク シート	教材数
1～2年	12	5	0	0	5	2	0	0	0	0	16	40
3～4年	12	10	0	0	5	1	2	0	1	0	19	50
5～6年	13	22	0	0	5	13	0	0	1	0	20	74
中学校	9	10	21	3	6	51	3	2	1	1	24	131

中央教育審議会が答申した「道徳に係わる教育課程の改善等について」で「(3) 道徳の内容をより発達の段階を踏まえた体系的なものに改善する」と「(4) 多様で効果的な道徳教育の指導方法へと改善する」に沿って、道徳教科の教材内容が開発されているようである。

方法

文部科学省が発行した「私たちの道徳」(2014)の中で私たちが教材化した資料は以下の通りである。

○小学校1～2年編(17教材)；るっぺどうしたの／うきぎとかめ(イソップ物語)／小さな努力のつみかさねー二宮金次郎／よいと思ったことは進んでー武者小路実篤／ぼんたとかんた／お月さまとコロ／たびにでて／助け合って生きる一日野原重晴(2時間扱い)／はしのうえのおおかみ／およげないりすさん／お墓参りー河合雅雄／ハムスターの赤ちゃん／シロクマピース／虫が大好きーアンリ・ファール／黄色いベンチ／ぎおんまつり／森のゆうびん屋さん

○3～4年編(20教材)；少しだけなら／澤穂希／きつとできる高橋尚子／よわむし太郎／六セント半のおつり／キューリー・手塚治虫・俵万智・千住麻／うれしく思えた日から／良寛／心と心のあく手(2時間扱い)／同じ仲間だから／まど・みちお／ヒキガエルとロバ(2時間扱い)／自然や動物を大切に／雨のバス停留所で／小

篠綾子／井深大(2時間扱い)／ブラッドレーのせい求書／みんな待ってるよ／石川啄木／小泉八雲

○5～6年編(23教材)；希望と勇気をもってー内村航平・イチロー(2時間扱い)／豊田佐吉／向井千秋／サリバン先生とヘレン／うばわれた自由／宮澤章二／知らない間の出来事／銀の燭台(ビクトル・ユーゴ)／ブランコ乗りとピエロ／キケロ 格言／オリンピックヨット／その思いを受けついで／〈重点ページ〉命でんでんこ／自然をこよなく愛した人(宮澤賢治)／決まりは何のため(2時間扱い)／法や規則を守って、江戸のしぐさ／愛の日記(2時間扱い)／赤ひげ先生 小川笙船／人間をつくる道一剣道／世界の人とつながって(坂本龍馬)／ペルーは泣いている(加藤明)／情報社会に生きる私たち／自分を見つめ豊に生きる(尾本恵市、三枝成彰；2時間扱い)

○中学校編(43教材)；この人に学ぶー上杉鷹山／ネット将棋／志を立てるー伊能忠敬／この人に学ぶー山中伸弥／この人の一言ー河合隼雄／〈重点ページ〉一本の道をー坂本真民／礼儀を考える／この人に学ぶー松下幸之助／賢者の贈り物ーO. ヘンリー／この人に学ぶー若田光一／生涯の友ー正岡子規と夏目漱石／この人に学ぶー本田宗一郎／この人に学ぶー新島八重／この人に学ぶー山岡鉄舟／言葉の向こうに(2時間扱い)／この人に学ぶー高見盛／この人ひとと言ー鈴木大拙／「帰郷」／〈重

点ページ〉知命一茨木のり子／この人に学ぶ一吉川英治／キミばあちゃんの椿／この人に学ぶ一アンネ・フランク／この人のひと言一ルソー／この人のひと言一老子／二人の弟子一智行道信／この人に学ぶ一夏目漱石／二通の手紙／〈重点ページ〉仕の掟／希望新聞／鳩が飛び立つ日、石井筆子／世界人権宣言／いじめ撲滅宣言／はやぶさプロジェクト一川口淳一郎／この人に学ぶ一鎌田實／一冊のノート／旅立ちの日に一小嶋登・坂本浩美／古里を愛する一室生流星／この人に学ぶ一濱口梧陵（稲むらの火）／この人に学ぶ一西岡常一／中学生のみなさんへ一緒方貞子／海と空一檉野の人々／情報社会に生きる／卒業文集最後の2行一一戸冬彦

各教材は、学年別に、テーマ（主題）と内容項目、内容（読み物、コラム、格言等）、補助資料（独自なもの）で分類され、表5～表8にまとめられた。コラム欄の「一言」はメッセージの邦訳である。授業展開例と追加の補助資料、ワークシートはそれぞれに執筆者独自の工夫が施されている。またモラルジレンマ授業のために旧作と自作ジレンマが用意された。下線のあるテーマは読み物教材（文部科学省）を表し、研究2の読み物教材と大部分が重複している。各教材それぞれに執筆者は補足資料や新しい情報を加えて授業を展開しているが、中でも「補助資料」と明記した教材ではこれが加わることで新たな授業展開が期待できる。

表5 小学校1～2年編（18教材）

テーマ；人物，主題，読み物教材 （文部省，文部科学省，自作読み物資料），その他	内容項目	読み物	自作	コラム	一人一言	格言	短歌詩	テーマ；人物，主題，読み物教材 （文部省，文部科学省，自作読み物資料），その他	内容項目	読み物	自作	コラム	一人一言	格言	短歌詩
<u>1. るっぺどうしたの</u>	1(1)	○						<u>11. およげないりすさん</u>	2(3)	○		補助資料			
<u>2. うさぎとかめ</u>	1(2)	補助資料		○				<u>12. おはかまいり</u>	3(1)	補助資料		○			
<u>3. 小さな力のかみかさね</u>	1(2)		○					<u>13. ハムスターの赤ちゃん</u>	3(1)	○		補助資料			
<u>4. 武者小路実篤</u>	1(3)			○		○		<u>14. シロクマピース</u>	3(2)			○			
<u>5. ぼんたとかんた</u>	1(3)	○						<u>15. 虫が大好き・ファープル</u>	3(2)	○					○
<u>6. お月さまとコロ</u>	1(4)	○		補助資料				<u>16. 黄色いベンチ</u>	4(1)	○					
<u>7. 旅に出て</u>	2(1)	○						<u>17. 森のゆうびん屋さん</u>	4(2)	○					
<u>8. ＊助け合って生きる</u>	2(2)		ジレンマ明治図書					<u>18. ぎおんまつり</u>	4(5)	○		補助資料			
<u>9. 助け合って生きる</u>	2(2)			○				○全てのテーマには執筆者独自のワークシートが用意されている。							
<u>10. はしのうえのおおかみ</u>	2(2)	○													

＊2時間扱い、下線のある読み物資料（文科省）は研究（2）と同一、「自作」は新たに作られた資料。「自作資料・補助資料・自作ジレンマ」は執筆者独自

表6 小学校3～4年編（22教材）

テーマ；人物、主題、読み物教材 （文部省、文部科学省、自作読み物資料）、その他	内容項目	読み物	自作	コラム	一人一言	格言	短歌詩	テーマ；人物、主題、読み物教材 （文部省、文部科学省、自作読み物資料）、その他	内容項目	読み物	自作	コラム	一人一言	格言	短歌詩
1. 少しだけなら	1(1)	○						12. 誰かの生活を支えられる人に	2(4)						○
2. 夢は叶えるもの、澤穂希	1(2)		補助資料	○				13. ＊ヒキガエルとロバ	3(1)	○					
3. きっとできる	1(2)	○				○		14. ヒキガエルとロバ	3(1)			ジレンマ明治図書			
4. よわむし太郎	1(3)	○						15. 自然や動植物を大切に	3(2)		○				
5. 六セント半のおつり	1(4)	○		自作ジレンマ				16. 雨のバス停留所で	4(1)	○					
6. 人生のせんばいに学ぼう	1(5)		補助資料	○				17. 働く姿が輝いている人たち	4(2)		○	○			
7. うれしく思えた日から	1(5)	○				○		18. ＊働く姿が輝いている人たち	4(2)		○	○			
8. 良寛	2(2)						○	19. ブラッドレーのせい求書	4(3)	○		補助資料			
9. ＊心と心のあく手	2(2)	○						20. みんな、待っているよ	4(4)	○					
10. 心と心のあく手	2(2)		ジレンマ明治図書					21. ふるさとを愛した歌人	4(5)		○	補助資料			○
11. 同じ仲間だから	2(3)	○						22. 日本の文化にひかれて	4(6)		○				

＊2時間扱い、下線のある読み物資料（文科省）は研究（2）と同一、「自作」は新たに作られた資料。「自作資料・補助資料・自作ジレンマ」は執筆者独自、全てのテーマには執筆者独自のワークシートが用意されている。

表7 小学校5－6年編(24教材)

テーマ；人物，主題，読み物教材 (文部省，文部科学省，自作読み物資料)，その他	内容 項目	読み 物	自 作	コ ラ ム	人 物 言	格 言	短 歌 詩	テーマ；人物，主題，読み物教材 (文部省，文部科学省，自作読み物資料)，その他	内容 項目	読み 物	自 作	コ ラ ム	人 物 言	格 言	短 歌 詩
1. *希望と勇気をもって	1(2)		○	○				14. 自然をこよなく愛した人	3(1)			○		補助資料	
2. 目標に向かって，豊田佐吉	1(2)			○				15. *決まりは何のため	3(2)	○		○			
3. 向井千秋	1(2)			○				16. 決まりは何のため						読み物文科省	
4. <u>ヘレンと共に一サリバン</u>	1(2)	○						17. 法や決まりを守って	4(1)2(1)		○			読み物文芸／自作ジレンマ	
5. <u>うばわれた自由</u>	1(3)	○	補助資料					18. *愛の日記	4(2)	○				補助資料	
6. 行為の意味，宮澤章二	2(2)	読み物（文科省）					○	19. 赤ひげ先生 小川竺船	4(3)	○				補助資料	
7. 知らない間の出来事	2(3)	○						20. 人間をつくる道一剣道	4(7)	○				補助資料	
8. 銀の燭台，ピクトル・ユーゴ	2(4)	○	補助資料					21. 坂本龍馬	4(8)			○		補助資料	
9. <u>ブランコ乗りとピエロ</u>	2(4)	○						22. ペルーは泣いている	4(8)	○					
10. キケロの格言	2(5)					○		23. 情報社会に生きる私たち	情報					自作資料	
11. 人類愛の金メダル	3(1)			○	自作ジレンマ			24. *豊かに生きる，尾本／三枝	1.2.4.			○			
12. その思いを受けついで	3(1)	○						○全てのテーマには執筆者独自のワークシートが用意されている。							
13. かけがいのない命	3(1)	中学生の作文				補助資料									

*2時間扱い，下線のある読み物資料(文科省)は研究(2)と同一，「自作」は新たに作られた資料。「自作資料・補助資料・自作ジレンマ」は執筆者独自

表8 中学校(44教材)

テーマ；人物, 主題, 読み物教材 (文部省, 文部科学省, 自作読 み物資料), その他	内容 項目	読 み 物	自 作	コ ラ ム	人 物 言	格 言	短 歌 詩	テーマ；人物, 主題, 読み物教材 (文部省, 文部科学省, 自作読 み物資料), その他	内容 項目	読 み 物	自 作	コ ラ ム	人 物 言	格 言	短 歌 詩
1. この人に学ぶ一上杉鷹山	1(3)	補助資料		○		○	詩	24. この人のひと言一ルソー	3(3)		補助資料			○	歌
2. ネット将棋	1(3)	○	補助資料			○		25. この人のひと言一老子	3(3)		補助資料			○	
3. 志を立てる一伊能忠敬	1(4)		自作資料					26. 二人の弟子一智行と道信	3(3)	○					
4. この人に学ぶ一山中伸弥	1(5)		自作資料		○			27. この人のひと言一夏目漱石	4(1)		補助資料			○	
5. この人の一言一河合隼雄	1(5)		補助資料			○		28. 二通の手街	4(1)	○	自作ジレンマ				
6. 一本の道を一坂本真民	1(5)							29. 什の掟	4(1)	補助資料		○		○	
7. 礼儀を考える	2(1)		自作ジレンマ					30. 一中生に, 声をかけて下さい	4(2)				○		
8. この人に学ぶ一松下幸之助	2(1)				○	○		31. 鳩が飛び立つ日, 石井筆子	4(2)	○					
9. 賢者の贈り物一〇. ヘンリー	2(2)		○					32. 世界人権宣言	4(3)		補助資料			○	
10. この人に学ぶ一若田光一	2(2)	補助資料			○			33. いじめ撲滅宣言	4(3)				○		
11. 生涯の友一正岡子規と夏目漱石	2(3)	補助資料		○			34. はやぶさプロジェクト	4(4)	補助資料			○			
12. この人に学ぶ一本田宗一路	2(3)	補助資料			○		35. 誰かのために一鎌田實	4(6)				○			
13. この人に学ぶ一新島八重	2(4)	補助資料			○		36. 一冊のノート	2(6)	○	評価シート					
14. この人に学ぶ一山岡鉄舟	2(5)	補助資料			○		37. 旅立ちの日に	4(7)				○			
15. *言葉の向こうに	2(5)	○					38. 古里を愛する一室生流星	4(8)	自作ジレンマ			○			
16. 言葉の向こうに	2(5)			課題ワーク			39. この人に学ぶ一濱口梧陵	4(8)	補助資料			○	○		
17. この人に学ぶ一元小結高見盛	2(6)				○	○	40. この人に学ぶ一西岡常一	4(8)	補助資料			○			
18. この人ひと言一鈴木大拙	2(6)		補助資料			○	41. 中学生のみなさんへ緒方貞子	4(10)			○		○		
19. 帰郷	2(6)	○					42. 海と空一樫野の人々	4(10)	○	補助資料					
20. 知命一茨木のり子	2(6)					○	43. 情報社会に生きる私たち	情報		自作資料					
21. この人に学ぶ一吉川英治	3(1)		補助資料			○	44. あなたの身近にいじめはあるか	4(3)	一戸冬彦						
22. キミばあちゃんの櫓	3(1)	○	○				(21)を除き, 全てのテーマに著者独自のワークシートが用意されている。								
23. この人に学ぶ一アンネ・フランク	3(3)	アンネの日記			○										

*2時間扱い，下線のある読み物資料(文科省)は研究(2)と同一，「自作」は新たに作られた資料。「自作資料・補助資料・自作ジレンマ」は執筆者独自

表5～表8を概観すると、私たちが用意した教材別の授業展開例は、学年の進行に従って、18本→20本→23本→43本と教材の数が確実に多くなっていることが分かる。

小学校低学年で取り上げた教材例は、表5によると18本あり、その内訳は読み物が12本とコラムその他の内容のものが6本である。なおオープンエンド形式のモラルジレンマ授業は1本含まれている。

小学校中学年で取り上げた教材は、表6によると、22本で、その内訳は読み物資料が16本とこれ以外が6本である。オープンエンドの展開のモラルジレンマ授業は3本含まれている。

小学校高学年で取り上げた教材は、表7によると、24本で、その内訳は読み物資料が14本とこれ以外が10本である。自作資料による授業が1本、モラルジレンマ授業2本が含まれた。

中学校で取り上げた教材は、表8によると、44本で、その内訳は読み物資料が11本とこれ以外が33本である。自作資料による授業が3本、モラルジレンマ授業が3本作られている。

小学生と中学生で教材の内容について比較すると、読み物教材について、制作本数で学年間で大差がない

(11～16本の範囲)がその他の内容を使った教材は、中学生で最も多く33本に対し、小学生は4～9本と少ない。中学生では様々な教材づくりの可能性が高いことを示唆している。また補助資料の提供数を学年間で比較すると、小学校(4～8本の提供)に対して中学校では19本の提供とかなり多く、その分多様な教材作りが期待できる。

結果と考察

『考える道徳を創る「私たちの道徳」教材別ワークシート集』、小学校1～2年編、3～4年編、5～6年編、中学校編、で、授業の「ねらい」を「判断」「心情」「意欲」「態度」について、整理した結果を発達的に示したのが、表9と図3である。

この表9から小学校では、授業の「ねらい」を道徳的な「意欲」や「態度」を育てる教材が多いが、中学校では、道徳的な「判断力」を育てる教材が非常に多くなっており、「心情」を育てる教材は、学年に関わりなく、20%～29%程度見られた、という特徴を得た。また、図3からは、「態度」や「意欲」を「ねらい」とする授業は小学校低学年で多く、学年の進行と共に減っている傾向が見られる。逆に学年の進行と共に着実に増えているのが道徳的な「判断」を「ねらい」とした授業である。これに対して、「心情」を育てることを「ねらい」とした授業はどの学年も多くはないが、一定量を認めることができる。

私たちは、「考える道徳、議論する道徳」を念頭に、

表9 学年別に見た教材別授業の「ねらい」
(荒木他編集, 2014)

学 年	判 断	心 情	意 欲	態 度	教材数
小学校1・2年	2.5	4	6.5	5	18
小学校3・4年	5	4.5	6	6.5	22
小学校5・6年	6	7	7.5	3.5	24
中学校	19	10	7	8	44

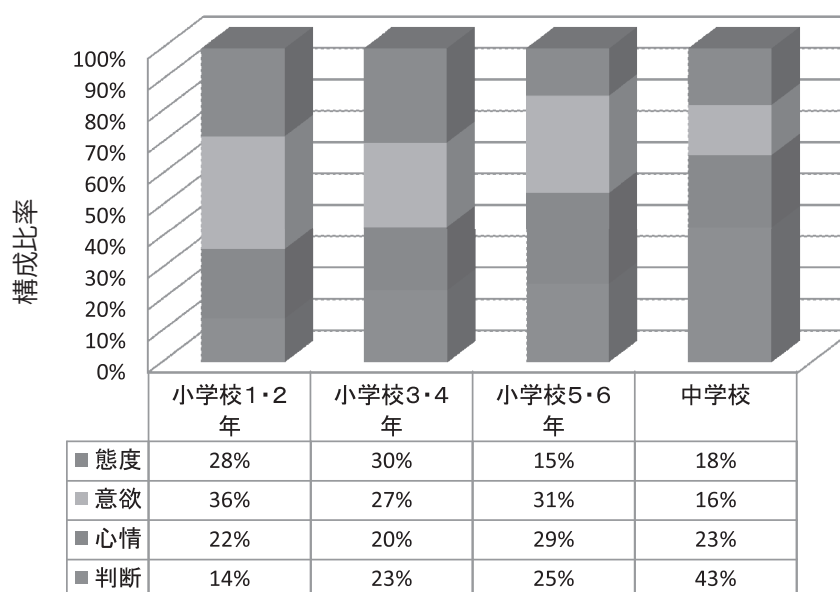


図3 荒木他編集「私たちの道徳」教材別ワークシート集(2014)における道徳の授業の「ねらい」(判断, 心情, 意欲, 態度)を学年間で比較した構成比(%)

道徳性の発達を考慮して、「私たちの道徳」の教材化を進めてきた。この試みは、道徳的な「判断」の育成を「ねらい」とする教材を学年の進行に合わせて、用意することで達せられると考えている。また認知的な発達を考慮すると、小学校中学年以降から討論授業が本格化できるものと考えている。図3に見られるように、「判断」の構成比率は、低学年で14%であったが、その後、学年の進行に伴って、23%、25%と増え、中学生では43%と教材の半数近くに達していた。このように、授業の「ねらい」は児童生徒の発達に合わせて「判断」重点に傾斜し

て教材化が行われていたことが確認された。

次に、同じ読み物教材に限定して、文科省が提供している授業の「ねらい」と私たちが教材化した授業の「ねらい」を比べた。両方で共通する教材は小学1－2年12本、3－4年11本、5－6年10本、中学校9本である。

図4は文科省提供の教材における道徳授業の「ねらい」の構成比率を学年別に比較したものであり、図5は荒木他編集の「ねらい」構成比率である。図4に見られるように、文科省提供の教材では授業の「ねらい」は道徳的な「態度」の育成に集中している。これに対して、荒木

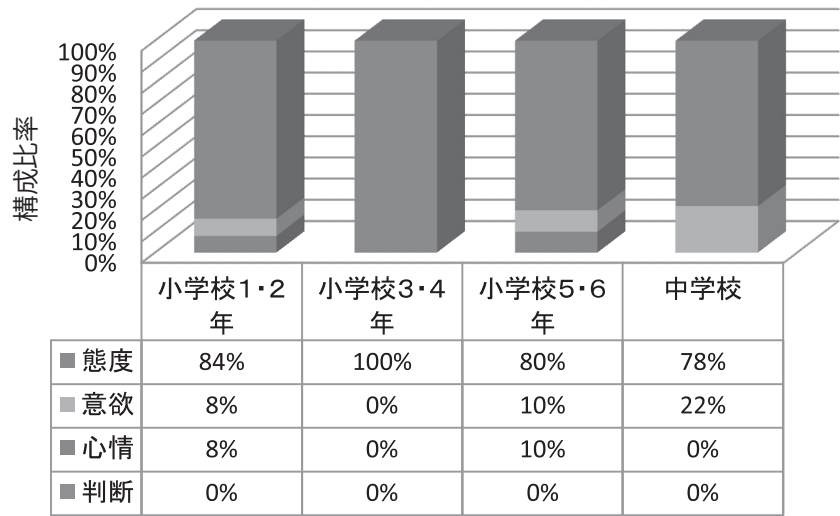


図4 「私たちの道徳」読み物教材のうち共通する教材（小学校33，中学校9）における授業の「ねらい」の構成比率（文部科学省，2014）

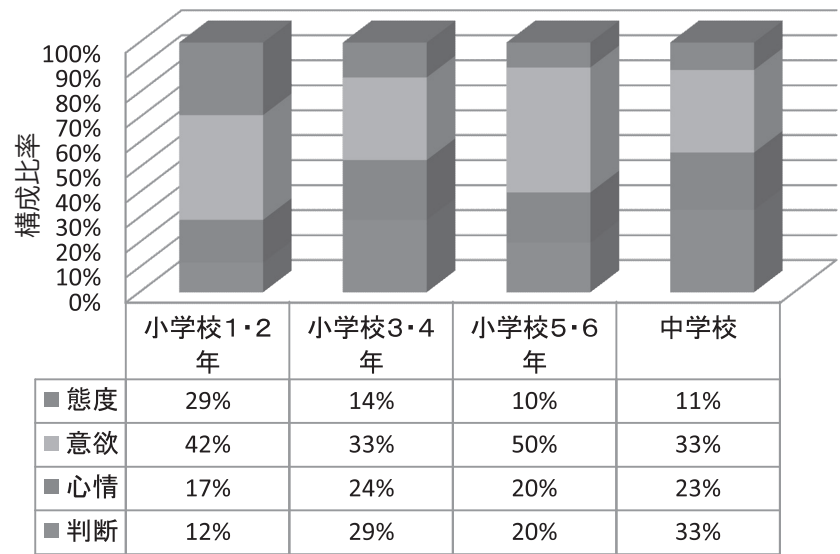


図5 「私たちの道徳」読み物教材のうち共通する教材（小学校33，中学校9）における授業の「ねらい」の構成比率（荒木他編，2014）

他編では、授業の「ねらい」は「判断」「心情」「意欲」「態度」の4つに分散しており、構成比率の大きさから、強いていえば、「判断」や「意欲」を比較的重視した「ねらい」となっている。道徳的「判断」には、しっかり考え、話し合うという活動が伴うことを考慮すると、クローゼンドの「読み物」教材も工夫や加工によって、「考える道徳、議論する道徳」へ転換できることを示唆している。

図2や図4を見ると、文部科学省の教材作りの特徴として、どの学年に関わらず、道徳的「態度」の育成への期待が極めて高い。このように、「読み物教材」を用いた授業の「ねらい」について、文部科学省の提案では、授業の即時的な効果を目指すというのではなく、道徳的実践に結びつく態度を育てることに関心が高いように見える。

今回私たちが考える道徳の授業では、図3と図5に示されたように、学年の進行と共に、「判断」を重視する傾向が認められた。これは「考える道徳・議論する道徳」を目指した編集の意図からしごく当然の帰結である。また、「心情」は学年に関わらず一定の割合（20%前後）で現れていた。一方、「意欲」や「態度」は低学年で授業の「ねらい」とされやすく、学年の進行と共に少なくなる傾向にあった。特に、小学1-2年生で「意欲」を授業の「ねらい」とすることが多く見られた。これは、道徳の授業に子どもたちの関心を向ける上で大切な「ねらい」であり、即時効果も期待できるのである。要するに、「私たちの道徳、教材別ワークシート集」では、発達を軸にして「ねらい」の構成はバランスよく設定されていたと結論できる。

引用文献

荒木紀幸 1997 続「道徳教育はこうすればおもしろい」北大路書房 pp.153-156.
 荒木紀幸・堀田泰永・棚澤 実・松本 朗（編集） 2015 「私たちの道徳」教材別ワークシート集、小学1-2年編。明治図書

荒木紀幸・堀田泰永・棚澤 実・松本 朗（編集） 2015 「私たちの道徳」教材別ワークシート集、小学3-4年編。明治図書
 荒木紀幸・堀田泰永・棚澤 実・松本 朗（編集） 2015 「私たちの道徳」教材別ワークシート集、小学5-6年編。明治図書
 荒木紀幸・松尾廣文・荊木 聡・棚澤 実（編集）2015 「私たちの道徳」教材別ワークシート集 中学校編 明治図書
 道徳教育の充実に関する懇談会 2013 「今後の道徳教育の改善・充実方策について」（平成25. 年3月、報告）
 行安茂 2009 道徳教育の理論と実践 新学習指導要領の内容研究、教育開発研究所 pp.214-216
 教育再生会議 2007 「社会総がかりで教育再生を〜公教育再生への第一歩〜」（平成19年1月、第1次報告）
 教育再生会議 2007 「社会総がかりで教育再生を〜学校、家庭、地域、企業、団体、メディア、行政が一体となって、全ての子供のために公教育を再生する〜」（平成19年12月、第3次報告）。
 森岡卓也 2011 道徳教育再生のかぎ一制作・現場・学会—近代文藝社
 文部科学省 2008 小学校学習指導要領解説・道徳編（平成20年6月）
 文部科学省 2008 中学校学習指導要領（平成20年3月）
 文部科学省 2011 「小学校道徳 読み物資料集」（平成23年3月）
 文部科学省 2012 「中学校道徳 読み物資料集」（平成24年3月）
 文部科学省 2014 「わたしたちの道徳 小学校1・2年」（平成26年2月）
 文部科学省 2014 「私たちの道徳 小学校3・4年」（平成26年2月）
 文部科学省 2014 「私たちの道徳 小学校5・6年」（平成26年2月）
 文部科学省 2014 「私たちの道徳 中学校」（平成26年2月）
 文部科学省 2014 「私たちの道徳 小学校」 活用のための指導資料（平成26年3月）
 文部科学省 2014 「私たちの道徳 中学校」 活用のための指導資料（平成26年3月）
 中央教育審議会 1998 「新しい時代を拓く心を育てるために」一次世代を育てる心を失う危機—（平成10年6月答申）
 中央教育審議会 2008 「21世紀を切り拓く心豊かでたくましい日本人の育成をめざし」（平成20年1月答申）
 中央教育審議会 2014 道徳に係わる教育課程の改善について（平成26年、10月答申）